

研修報告書 No.21

所属：杏林大学医学部附属病院 研修医
研修先：梶原町立国民健康保険 梶原病院
津野町立国民健康保険 杉ノ川診療所

私は平成 30 年 1 月 29 日から 4 週間、高知県高岡郡にある梶原病院と杉ノ川診療所で地域研修をさせていただきました。杏林大学医学部附属病院では地域研修を様々な場所から選ぶことから出来るのですが、高知には一度も行ったことがないこともあり、選びました。私の高知への最初のイメージは南にあることから、暖かい過ごしやすい地域だと思っていました。ただ訪れた時期が冬ということもありましたが、非常に寒く、研修のほとんどを雪の中で過ごすことになり驚きました。

梶原町は、高知県中西部、愛媛県との県境に位置し、面積は 23,651 k m²で、そのうち 91%が森林です。明治 22 年（1889 年）の市町村制実施により、梶原、越知面、四万川、初瀬、中平、松原の 6 ヶ村を合併し「西津野村」として発足し、その後「梶原町」と改称し、現在に至っており、平成 26 年度現在、人口は 3,700 人弱で、65 歳以上の高齢化率は 40%を超えています。実際に私が外来や病棟で診させていただいた患者さんは非常に高齢な方が多い印象でした。

梶原病院の研修では、今まで大学病院でしか研修したことがない私には驚くことばかりでした。検査に関してですが放射線技師さんや臨床検査技師さんなど大学病院では何十人もの方が所属しており、日によって勤務する人も違いますが、梶原病院ではどちらも一人ずつしかおられず、医師との距離も非常に近いものでした。研修中に技師さんが人間ドックで一日休まれたことがあったのですが、前日に検査の方法を教えていただき、一日技師さんの代わりに業務をやらせて頂き非常に勉強になりました。今までは電子カルテ上でただクリックすれば結果が出てきていたのですが、このように複雑なことをやって結果がでるということを改めて実感しました。

私が普段研修している病院では非常に多くの科があって、それぞれの手技などが科によって専門化されています。しかし梶原病院では、自分たちで出来ることを全てやっていくというスタイルであり、次への行動に科で話し合うなどのロスが無く、非常に無駄のない診療が出来ているように感じました。研修中に外来で下血の患者さんを診た時に上の先生に相談した際、すぐに内視鏡で覗いてみようかと言って下さり、10 分後には内視鏡を行うことが出来ました。これは大学病院など科が細分化されている病院では難しいことであり、とても勉強になりました。

また 2 日間、杉ノ川診療所で研修をさせていただきました。杉ノ川診療所では主に外来を見させていただき、院長先生の医療資源が少ない中でいかに診断に結び付けるかという技

術を短い期間ですが間近で見ることが出来て、非常に良かったです。

4週間の研修の中で、休日は梶原から下りて高知の町を巡ることや梶原病院の先生にご飯に連れて行ってもらうなど、公私共に楽しく研修を送ることが出来ました。今まで自分の大学病院でしか働いていなかったため不安もありましたが、梶原病院の医師、医療スタッフの方に最後まで丁寧にご指導を頂き、また高知医療再生機構の職員の方に高知県での研修を行うために色々便宜を図っていただき、とても充実した研修を送ることが出来ました。1か月の研修、本当にお世話になりました。誠にありがとうございました